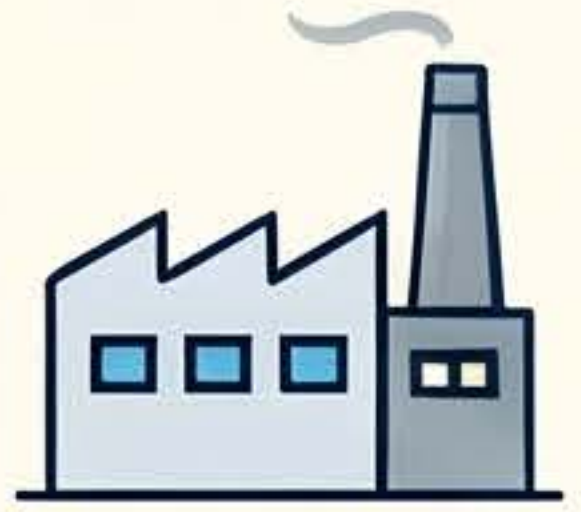


テスラOptimus量産開始：EVから物理AI・ロボティクス帝国への構造転換

テスラは2026年第3四半期、フリーモント工場の旧Model S/Xラインを解体・転換し、初の量産品質を持つ「Optimus Gen 3」の初期生産を開始しました。短期的な利益圧縮を伴いつつも、圧倒的な製造スケールと独自の自律学習基盤（Optimus Academy）の垂直統合により、物理AI市場での覇権確立を目指しています。

Optimus Gen 3：生産開始と技術的革新

フリーモント工場で「初期生産」開始、年産100万台規模へ

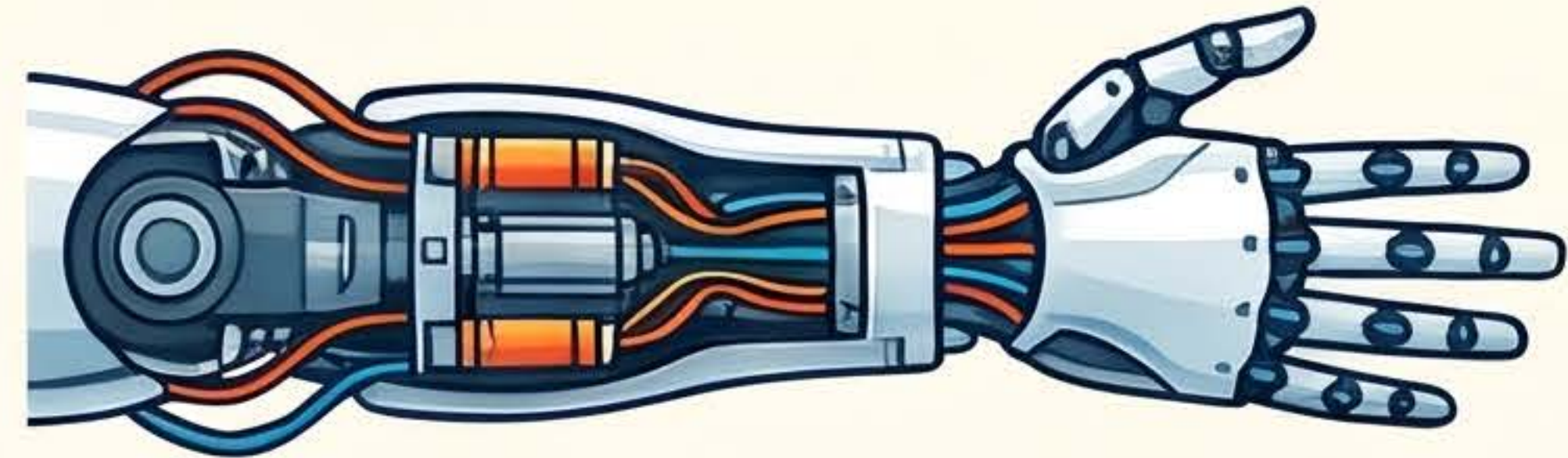


旧Model S/Xライン
を転換



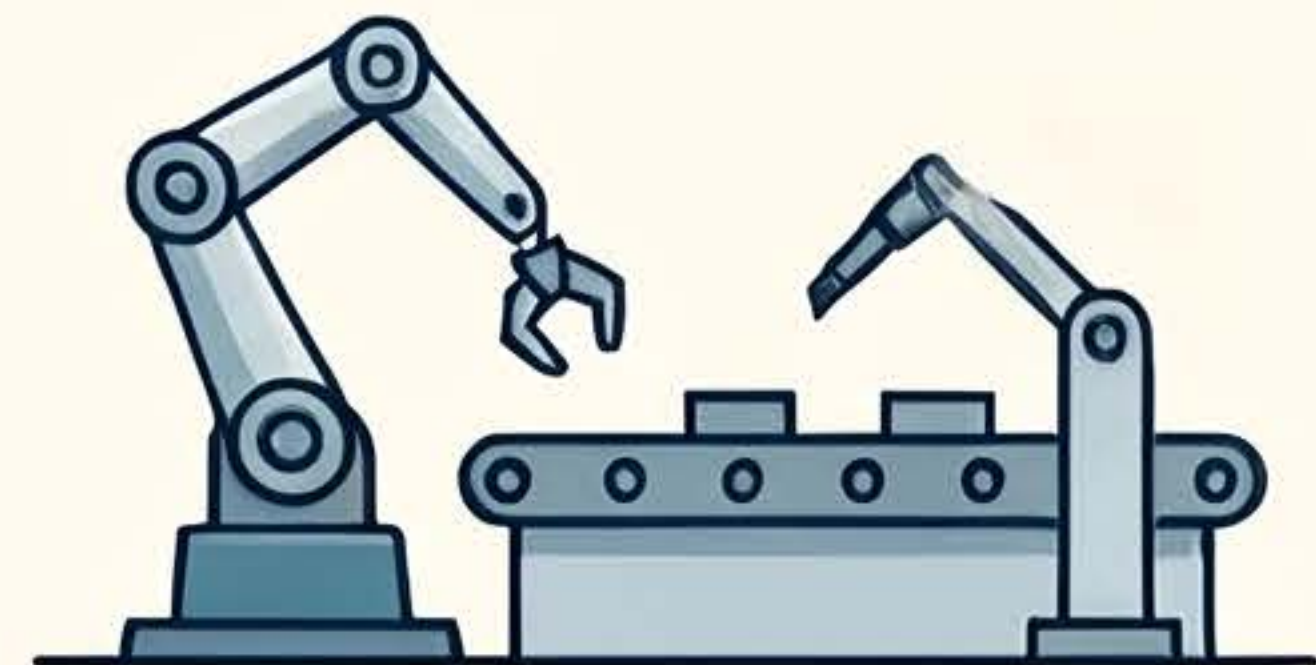
2026年末までに
週産1,000台超を目指す

片手22自由度の「Gen 3ハンド」と前腕駆動の刷新

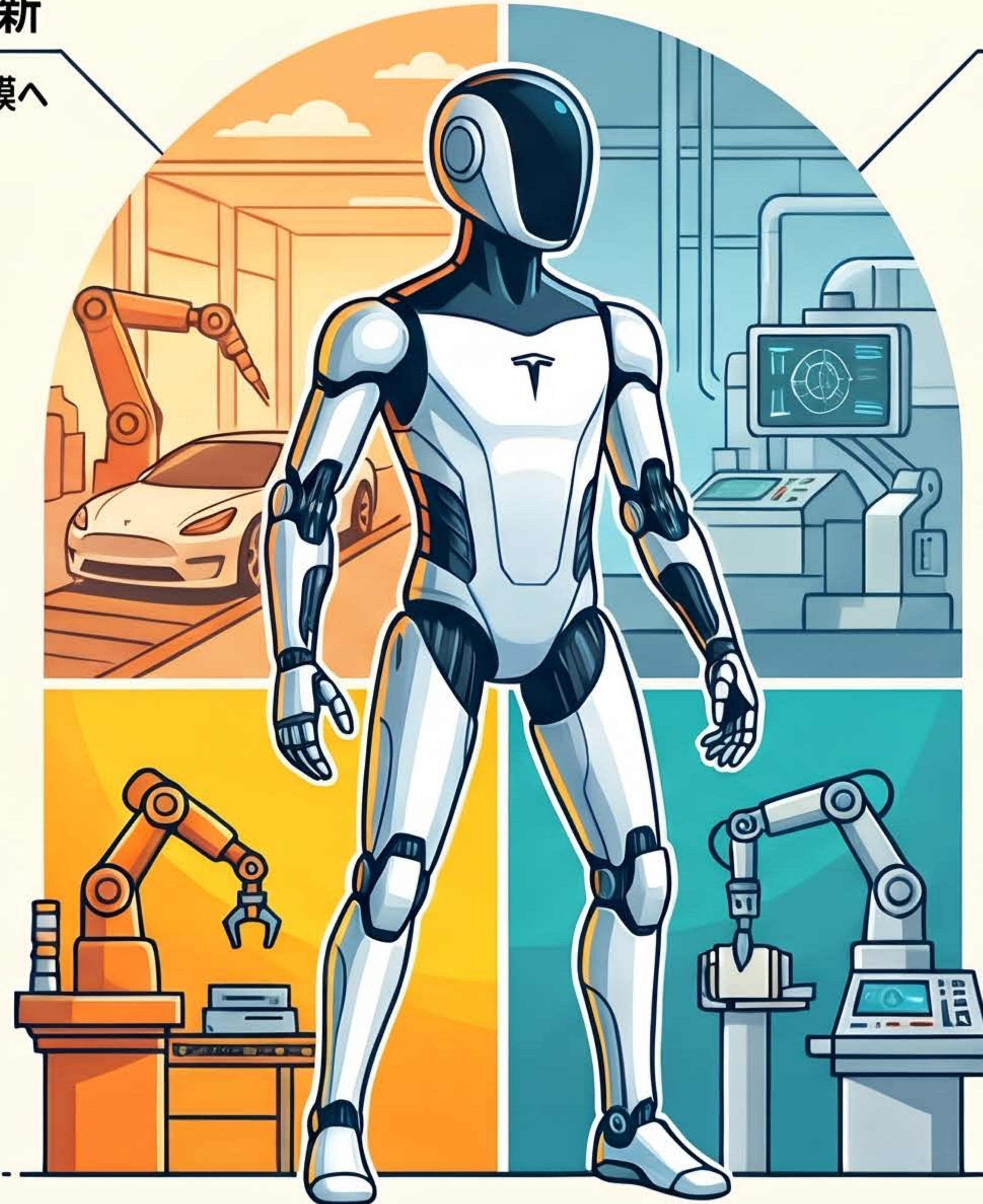


50基のアクチュエータを前腕へ移設し、
人間と同等の繊細な手先操作を表現。

超精密組立の難度と耐久性が初期立ち上げの壁



手作業工程の残存や
サブミリ単位のア
イメント不良が初期
歩留まりに影響。



量産ロードマップと競合優位性

ギガ・テキサス「年産1,000万台」構想で他社を圧倒

年産1,000万台



GIGA TEXAS
(テスラ)

10～80倍以上引き離す



COMPETITORS
(e.g., Figure AI)

目標原価2万ドル未満で人件費の16分の1以下を実現



垂直統合データ基盤「Optimus Academy」と400MW Cortex



50万時間程の
自律学習データ



メガパック蓄電基盤
でAI汎用化を推進。